

人権学習授業参観ありがとうございました。

6月30日(金)は、全学年の人権学習の授業を参観していただき、ありがとうございました。熊本県では、「自他の人権を大切にできる実践行動のできる児童生徒の育成」をめざして、小、中、高校で全ての教育活動を通して取り組んでいます。実践行動とは、他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し、義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面して解決しようとする行動のことです(文部科学省人権教育の指導方法の在り方第三次とりまとめ)。これを受けて本校では、「差別を見抜き、差別を許さない強い気持ちを持ち、行動に表すことができる子どもを育てる」を目標にして取り組んでいます。



1年生の学習時の写真

1年生は、「てつぼうきらい」を学習しました。1年生は、「友達の立場を考え、みんなで助け合う。」ことをねらいとして学習します。教材を通して、学校生活の中で体験したことを思い出しながら、嫌なことを言われたとき、また、人が言われているのを見たとき、自分は、どうすればいいのかを考え、互いに助け合い励まし合うことを学び合いました。

1年生は、「てつぼうきらい」を学習しました。1年生は、「友達の立場を考え、みんなで助け合う。」ことをねらいとして学習します。教材を通して、学校生活の中で体験したことを思い出しながら、嫌なことを言われたとき、また、人が言われているのを見たとき、自分は、どうすればいいのかを考え、互いに助け合い励まし合うことを学び合いました。



2年生の学習時の写真⇒

2年生は、「ぼく さびしかった」を学習しました。2年生は、「自分の思いをきちんと言葉で表現していき、相手の発言から友だちのことを考えることを学び合いました。」をねらいとして学習します。自分の思いを言葉で表現していき、相手の発言から友だちのことを考えることを学び合いました。



3年生の学習時の写真

3年生は、「このままだまっていいのか」を学習しました。3年生は、人を傷つけないこと、自分がされて嫌なことは人にも絶対にしないこと、一人の安心や自由が保障されること、自分の命も人の命も同じだけたいせつなこと、命の重さは、みな同じであることを学んでほしいと授業されました。

4年生は、「おちゃんありがとう」を学習しました。この教材は、実際にあったことで、食肉センターで働く坂本さんと飼育農家のひとりの女の子との出会いを教材化したものです。牛を育てる側の深い愛情と、牛の命を預かり、食肉にする側の愛情を読み取る中で、子どもたちが、自分のくらしや食と重ねながら命の大切さや命をつなぐことを生業としている人について考える学習です。そして、自分の家族と重ねて、自分や家族、そして、人を好きなる学習です。

3年生は、「このままだまっていいのか」を学習しました。3年生は、人を傷つけないこと、自分がされて嫌なことは人にも絶対にしないこと、一人の安心や自由が保障されること、自分の命も人の命も同じだけたいせつなこと、命の重さは、みな同じであることを学んでほしいと授業されました。

4年生の学習時の写真





5年生の学習時の写真

5年生は、「この子とともに」を学習しました。この学習は、水俣病を問題を通して、命や人権、そして、地球で生きることを学び、一人ひとりが、これから持続可能な社会をどうつくっていくかを考え学ぶ学習です。5年生は、社会科や総合的な学習で水俣病についてこれから学びを深めていきます。

そして、実際に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」という熊本県の取り組みで水俣に行き学習します。まさに熊本県独自の人権総合学習です。この学習を通して、国連が提唱するSDGSを体得して、地球とともにみんなで幸福に生きる力を身に付けてほしいと思います。

6年生は、「部落のふところふかく」を学習しました。この教材は、私の尊敬する先輩のえいじさんの生い立ちや家族のことが教材になったもので、「部落」とは、被差別部落のことです。えいじさんは、養豚業を営む両親や家族のために、小学生の時から自分にできることで貢献したいと、いろいろな仕事や手伝いをしてきました。夜遅く街のラーメン屋や食堂にリヤーカーで残飯をもらいに行き、養豚のえさにしていたそうです。また、豚が出産するときも手伝いをしていて、よく学校に遅刻したそうです。教材文には書いてありませんが、以前、私に当時のことを話してくれました。遅刻すると当時の先生たちからは、理由も聞かずに叱られたそうです。理由を聞いてもらえたら、自分の家族のがんばりや子豚が生まれたときの喜び等、家族のがんばりや養豚業のすばらしさをたくさん話せるのに、といつも残念だったそうです。しかし、一人だけ理由を聞いてくれた担任の先生がいて、その先生は、理由を聞いて、家族のために手伝うえいじさんを励まし続けてくれたそうです。時には、夜明け前の養豚場に来て、豚の出産を手伝ってくれたそうです。生まれたばかりの子豚を着ていた自分の服を脱いで、包んで喜んでくれたそうです。えいじさんは、その先生が大好きだったそうです。また、同じ学級の子どもたちもその先生が好きで、多くの子どもたちと一緒に先生の自宅に遊びにも行っていたそうです。その先生との出会いからえいじさんは、自分の家族やその労働を好きになったそうです。そして、その先生みたいな先生になりたいと思い、頑張り、夢を実現して先生になり、今日も尽力されています。私は、人権学習が大好きです。それは、えいじさんのように、自分や家族のくらしや願い、同じ学級、学校の子どもたちの思いを知り、自分を家族を、なかまを、そして、ふるさとを笑顔で好きと言える学習だからです。人権学習は、小学校では1年生から6年生まで、その発達段階に応じて内容を検討し、その学年で育てたい力を各学年ごとに設定して取り組んでいます。今、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症、戦争等、私たちの社会は、予測困難な社会になっています。また、世界はグローバル化し、政治や経済、食料等、世界中がつながり合って共存しなければならないようになっています。このような状況の中で子どもたちは、成長して、生き抜く力を身に付けていかなければなりません。私は、その力として、人とつながり合う力が、最も必要だと思います。その人とつながり合う力を総合的に学習する人権学習を、横島小学校でこれからも大事に続けて行きます。

6年生の学習時の写真

